

建物の歴史

教育博物館書籍閲覧所書庫として明治 13 年(1880 年)に築造された、通称「赤レンガ 1 号館」(以下 1 号館)から 6 年後の、明治 19 年(1886 年)に東京図書館書籍庫として築造され、本年で 123 年を迎えています。

1 号館と同様の寄せ棟、洋小屋トラス屋根の形式に加え特徴的な最上部の丸窓や玄関入り口の白い石とレンガを交互に用いた尖頭アーチなど、見るべきところの多い 3 層構造の重厚な建築です。



fig. 1 1 号館との渡り廊下が見える

東京美術学校の以前よりこの場所に在り、芸大のいわばルーツを知る時代の遺構として非常に重要であり、東京都の中でも現存する最も古い時期の貴重なレンガ造といえます。

関東大震災被災後には建物中央部の鉄筋コンクリート造の門型フレームと軒先の臥梁が補強として施されています。

美術学校、芸大の書庫・倉庫(絵画の保管)などとして使われ、近年になって野口三千三先生の「こんにやく体操」の授業が行われた体操室としての利用を経ながら、現在の大学院美術研究科保存修復日本画のアトリエとなり、小規模な手入れを行いながら現在に至ります。元々の玄関はかつて音楽 5 号館側を通っていた道に面しており、1 号館とは木造の渡り廊下により妻側でつながれていましたが、取り壊され現在の入り口が作られています。最近になってスロープと階段が、そして北側音楽 2 号館との間には避難用の鉄骨階段が整備されました。



fig. 2 1 階南西側と思われる書庫の様子

(fig. 1, 2: 明治 33 年ころのもの こども図書館所蔵)

改修の概要

今回、一連の予算の中から急遽耐震補強の工事を施すことができるようになったことは、直近の地震に対しての備えを行う絶好の機会となりました。今回は構造躯体の補強を中心とした事業ですが、将来的にフレキシブルな利用が可能な計画を基本としています。

外壁は 40cm を超える厚みで積まれたレンガ造、内部の床や瓦葺きの屋根は成の大きな木造で組まれ迫力のある構造を現しています。その外壁と屋根はそのままに、レンガで囲まれた内部について全面的な改修を行います。

建造当初、階段は建物の中央にありましたが、いつの時期か 1 号館側へと移されました。構造的バランスの観点から、再び建物中央へと階段を戻し、木製の代わりに鉄筋コンクリートの頑強な箱体(コア)を形成し、左右シンメトリーな骨格としています。これは 1 号館での基本的な構造補強の考え方を踏襲したものとなっています。1 号館との相違点としては、3 層軒高 10m の高さがあるため、壁が外へと孕み出す力を抑えるために、レンガ壁面全面に対して内側に鉄筋コンクリート造の壁を

設けレンガ壁へ面的にアンカーを施すことが挙げられます。また、できるだけオリジナルの材料を活かせるように、床構造については取り外した梁・根太・床板等を再利用し、建設廃材の軽減にも配慮しています。

構造補強のための構造体が室内壁面を覆うため、内装は全て新たなもので計画します。材料は作業環境や居住性に配慮した自然系の素材を中心に、素材レベルで湿度・温度を適度に調整するものを選定することに努めています。

設備は今まで個別に対応してきた内容を一新し、計画的な換気や空調設備のスマートな配管、電気容量の拡大、情報システムの充実を含む将来の拡張性の確保をしています。

より安全性を求める観点から、火気使用に対しての制約も設けています。作業上必要な場所を限定してガス設備を施し、それ以外で温水が必要な部分には電気式温水器での対応を計画しています。玄関が元々の位置へ戻ることから、霧除けの庇の設置を計画し、快適性を高める提案をしています。既存の石段は現状保存し、使い易いアプローチの階段をその上に渡しかけます。これは1号館と揃えたデザインで検討しています。

外観に関する新規のものは全てレンガ躯体とははっきりと縁を切り、保存と利便性を両立させるよう配慮した計画としています。

今回は予算の関係から外部の鉄の扉や窓まわりについてはやむを得ず手をつけずにおります。鉄扉などは著しい腐食も見られ、美的な観点以上に安全に対しての対策も必要なため、今後早い時期に扉の修繕を含む外装のお化粧直しや定期的な手入れができるように維持管理計画を立てて行くことが必要な状況といえます。

建築データ

築造：明治19年(1886年)
名称：旧東京図書館書籍庫（現赤レンガ2号館）
設計：小島憲之(1857～1918年)
構造：組積造(レンガ造り)+木造屋根
規模：地上2階建て+小屋裏
建築面積：182m² (55.1坪)
施工床面積：546m²(165.4坪)

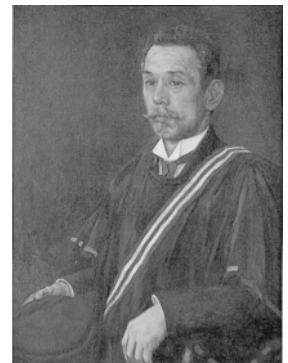


fig. 3 小島憲之像 1917年 岡田三郎助作

(東京大学所蔵肖像画サイトより転載)

耐震改修事業

耐震診断：平成21年4月～同6月
設計期間：平成21年6月～同9月
施工期間：平成21年10月～平成22年3月
発注：東京藝術大学
設計監理(建築・機械・電気)：施設課
耐震診断、構造設計：有限会社 万建築設計事務所
計画監修：東京藝術大学 美術学部 赤レンガ2号館改修ワーキンググループ
総合計画協力：美術学部 将来計画準備室

以上